

## 〈三郷学の視点⑧〉

### 三郷学の視点

#### 3. 今を知る…水(地下水と川の水)

私たちは、蛇口をひねるといつでもどこでも簡単に水を使うことができます。毎日の生活や事業用また、火災時の消火活動にも水が必要です。このように多くの機能を持つ水も三郷の大切な地域資源のひとつです。

むかしの三郷の人々は、地下水や川の水を生活に利用していましたが、昭和30年代に入り、地下水をくみ上げ塩素消毒し、水道管を通して各家庭に給水されました。昭和49年からは、地下水と江戸川の水を原水とする埼玉県からの受水により水道水を供給しています。現在でもそのうち約20%は、地下水を利用しています。

近年、阪神・淡路大震災をはじめ、甚大な被害を及ぼす災害が発生しています。災害時には、生命維持のため3日目までは1人1日あたり3ℓ、また4日目から10日目までは、炊事、トイレなどの生活水準を維持するために1人1日あたり20ℓ必要とされています。そのため三郷市では、施設の耐震化をすすめています。北部浄水場にステンレス製の配水池を建設し、給水拠点の確保と安定供給体制の強化を図りました(P10参照)。三郷の資源である地下水もこの配水池を通り地域のみなさんのところに届けられます。地下水や川の水は三郷の大切な地域資源です。



配水池完成記念に配られた三郷の水